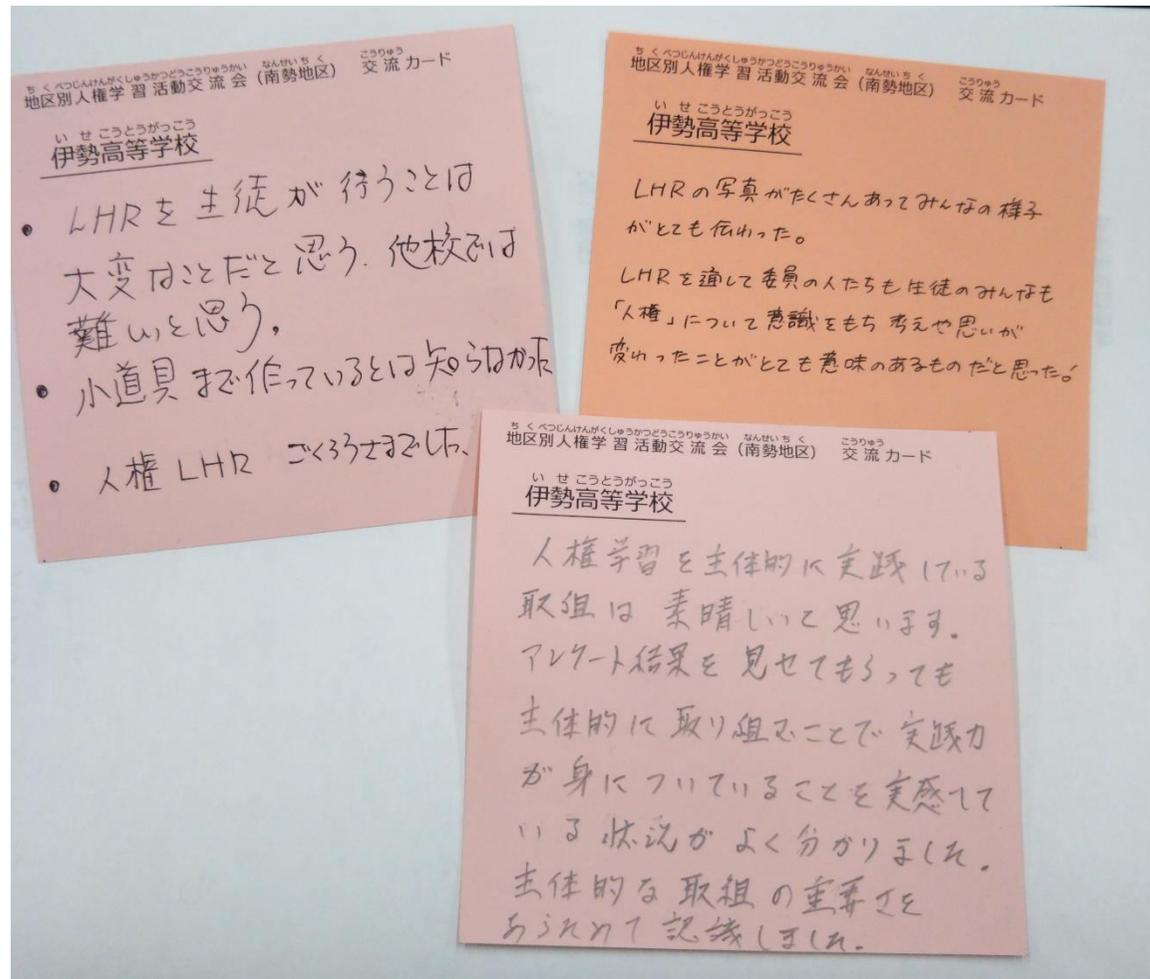


●「LUMIERE」＝「光」●

今回、「光」を当てるのは、ずばり、人権の問題と向き合う伊勢高生の皆さんです！今年の夏休みに、「地区別人権学習活動交流会」という行事が開催され、伊勢高校からは2年生の人権委員4名が参加してくれました。この行事は南勢地区の高校生が各高校の人権活動を紹介し、コメントし合うもので、伊勢高校の取り組みについては、下記のような意見をいただきました。



いかがでしょうか？ 人権委員を中心に、自分たちの手で作り上げていく人権 LHR は、他校の生徒さんにも大変なエネルギーのいることが伝わったようです。しかし、そのぶん、**考えが深まり、有意義な時間になっている**ことも感じてくれたようです。

いつも頑張ってくれている人権委員さんや、主体的に取り組んでくれるクラスの皆さんとともに、今後もさまざまな人権課題について考えていきましょう！！

—— 平和への願い ——

9月26～28日、2年生は、長崎・福岡へ修学旅行に行ってきました。長崎原爆資料館では、語り部さん(10歳の時に被爆体験をされた方)による平和講演がありました。

- ・「人間らしく生きることも、死ぬこともできなかった戦時中の苦悩」
- ・「原爆の衝撃」
- ・「原爆を受けたことによるいじめを苦に、自ら命を絶ってしまった8歳の妹」
- ・「妹のぶんまで生き、平和を訴えていきたいという強い願い」

など、多くのことを語っていただきました。

↓講演会後の、伊勢高生から語り部さんへの質問&お礼の言葉を紹介します。

○ 生徒の質問 ○



生徒：自分だったら、語るたびに思い出してつらくなる体験だと思います。そうまでして、私たちに語ってくれるのはなぜですか？

語り部さん：

- ・絶対に戦争を繰り返してはいけないこと
- ・「死んだ方がまし」と思う時があっても、いつか必ずいいことがある。生きていることに誇りを持ってほしい
- ・平和な世の中を作してほしい

ということを伝えたくて、語っています。

○ 人権委員のお礼の言葉より ○



- ・自分の祖母が3歳の時に戦争を体験したが、とにかく怖かったという印象しかなかったそうなので、詳しいことは聞けなかった。今日は具体的に当時の様子を知ることができて良かった。
- ・今、自分が家族や友人といっしょにいられること、こうやって話を聞けることは有り難いこと。
- ・今日の話聞いた私たちが、次の世代に伝えていかなくてはならない。

○ 人権委員のお礼の言葉より ○



- ・今、この日常があることの有難さを感じた。
- ・戦争を経験していない自分たちにとっては、学校で、教科書に書いてあることだけを学ぶのではなく、こうやって実際に現地を訪れたり、戦争を経験した人のお話を聴いたりして学ぶことの大切さが分かった。
- ・この話を聞いて感じた思いを忘れないようにして、生活していきたい。

語り部さんの平和への願い、しっかりと受け止めてくれました！